

平成31年4月25日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報告）

ア 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の推進について

※学校・地域連携担当課長から資料に基づき説明。

（鈴木委員）富塚小、富塚西小及び富塚中において、小・中学校合同で会議を開催しているが、同様の例はあるか。

（学校・地域連携担当課長）引佐北部小・中学校及び水窪小・中学校において、小・中学校合同で協議会を設置している。三ヶ日東小、三ヶ日西小及び三ヶ日中学校においては、合同で協議会を設置してはいないが、各小学校の委員代表が中学校の協議会に参加し情報共有を図っている。

（渥美委員）平成28年度に学校運営協議会推進モデル校を設定してから3年が経過したがその総括は。

（学校・地域連携担当課長）学校運営協議会制度については浸透したと思うが、今後は推進モデル校の取り組みをモデル校以外の学校へより周知したい。

（安田委員）学校評議員制度と学校運営協議会制度との関係性はどのようになっているか。

（学校・地域連携担当課長）学校評議員と学校運営協議会委員を兼ねているモデル校もある。本格導入時は、学校評議員を置くか置かないか学校長の判断で選択できるようになる。

（安田委員）学校評議員と学校運営協議会の両方を設置すると委員となる地域住民の方等の負担は大きくなる。学校運営協議会の導入がスムーズになるよう、必要な情報を各学校へ提供して欲しい。

（渥美委員）学校評議員は、校長の求めに応じて個人が学校運営に関して意見を述べるもの、学校運営協議会は学校運営や教職員人事に一定の権限をもって関与する合議制の機関。それぞれの制度導入の趣旨を踏まえつつ、学校運営協議会も学校をより良くするために活動することは出来る。

イ 平成31年度全国学力・学習状況調査について

※指導課長から資料に基づき説明。

（黒柳委員）当日実施校と後日実施校は同じ問題になるか。

(指導課長) 後日実施校も当日実施校と同じ問題である。ただし、後日実施校については、平均点等の集計結果に反映されない。

(安田委員) 英語の「話すこと」は普通教室で行うのか。隣の生徒の声は聞こえないか？

(指導課長) パソコン教室で行う。イヤホンをして試験を行うが、隣の生徒等の声も聞こえてくる可能性はある。

ウ 校外及び校内適応指導教室について

※教育総合支援担当課長から資料に基づき説明。

(安田委員) 各適応指導教室に配置する職員数は足りているか。

(教育総合支援担当課長) 各適応指導教室において、必要な職員数の配置は出来ている。

エ 平成30年度浜松市立高等学校の部活動と進路等の状況について

※市立高等学校長から資料に基づき説明。

(渥美委員) 自転車事故が毎年度10件程度発生しているが、どのような指導を行っているか。

(市立高等学校長) 1年生を対象に、自動車学校と連携して自転車運転シュミレーター体験等を実施するとともに、全生徒を対象に被害者及び加害者の両面から自転車事故が発生しないよう指導を行っている。

(田中委員) 自宅から学校までの距離に応じて、自転車通学を制限しているか。

(市立高等学校長) 自宅から学校までの距離が半径2km以内の場合は自転車通学を制限している。

オ 市内の新たな県指定文化財・国登録文化財について

※文化財課長から資料に基づき説明。

(質疑なし)

カ 平成30年度美術館入館者10万人達成について

※美術館長から資料に基づき説明。

(渥美委員) 上村松園の展示数は。

(美術館長) 日本画で70点程度、スケッチ画を含めると100点程度である。

(黒柳委員)平成29年度から子ども市展の開催場所がクリエート浜松から美術館へ移ったが、その影響人数は。

(美術館)2万人程度である。

キ 平成31年度幼稚園園児数について

※幼児教育・保育課長から資料に基づき説明。

(質疑なし)

ク 平成31年度児童・生徒数について

※就学支援担当課長から資料に基づき説明。

(安田委員)八幡中学校は全22学級のうち半数の11学級が発達支援学級となっているがこの点についてどのように考えるか。

(就学支援担当課長)八幡中学校はこれまで発達支援の拠点校として位置づけがなされていたことから、周辺に比べて学級数が多くなっている。集中緩和のため近隣の学校での開設を検討しているものの、空き教室がないという理由から新規開設が困難となっている。

(安田委員)発達支援学級数が集中する方がいいのか、それとも分散がいいのか現状を踏まえて研究して頂きたい。